007

築地活字 / なまためプリント / アーリークロス●字心~ JIGOCORO ~ jigocoro.net 横浜を拠点に活動する「字心~ JIGOCORO ~」の活版印刷プロジェクト

「字心」は、活版印刷や金属活字の文化を今に生かすプロジェクトである。 横浜を拠点に活動する3つの会社に伺って、その活動を取材した。

■ 「字心 | ― 活版・活字をエンターテインメントに!

このプロジェクトを運営するのは横浜に拠点を持つ3つの会社、活字鋳造メーカーの株式会社築地活字、出版社の株式会社なまためプリント、セールスプロモーションの株式会社アーリークロスである。それぞれの得意分野を生かしながら活版印刷文化を継承・発展する事業を展開している(右図参照)。

事業の核になるのが金属活字や活版印刷。現在では活字の鋳造は難しくなっているが、若い人を中心に活版印刷による活字文化を見直す機運が高まり、近年のプライベート・プレス再興により静かなブームを呼んでいる。また年配の人であれば、活版印刷の昔ながらの風合いに愛着を抱き、金属活字の名刺を作ってみたいと考える人も多いだろう。金属活字は長年の技術の蓄積による工業製品としての美しさががある。さらに手作業による印刷工程により、文字に「ゆらざ」が生まれる。大切に残したい印刷技術である。







左上:「漱石撰シリーズ 活版しおり「猫の独白」」は、夏目漱石『我輩は猫である』の言葉とイラストがあしらわれている。「夢幻泡影シリーズ 活版しおり「文豪三傑」」は、夏目漱石、太宰治、芥川龍之介の文豪3人の言葉と似顔絵イラストで構成されている

右上:「活版しおり 花鳥風月(万葉集より)」 左下:文庫本サイズの書籍『活版書籍 はじまり の言葉「令和」」



左上:神奈川県立歴史博物館のショップでは、活版名刺をその場でオーダーすることができる右:字心の受託サービスの作例。名刺やショップカード、コースター、ポストカード、年賀状、シール、チラシなど、さまなまな制作を請け負っている









横浜の築地活字で購入できる活字を 掲載した「築地活字 書体見本帳」。新 たに活字を揃えたいと考えている人に は、活字のセット販売も用意されている



築地活字は100年の歴史を紡ぐ活字鋳造会社。常時20~25万個に及ぶ母型を保有し、4pt~ 42ptまで活字を鋳造できる日本国内でも数少ない活字鋳造技術を継承。右下の写真は活字鋳造に 取り組む活字鋳造職人 大松初行氏。写真:木口章人、藤元秀征







なまためプリントは横浜を中心に神奈川の隠れた 文士を支えてきた創業約50年の出版社。写真 は出版部「公孫樹舎」から刊行された書籍

アーリークロスは広告企画、セールスプロモーションを得意とする会社。写真は同社が手がける隔月刊発行のフリーペーパー「SPORTSよこはま」

■ 活版印刷・金属活字の「重み」の豊かさをを次世代につなぐ活動

「活版・活字をエンターテインメントに!」と謳う「字心」の活動内容はユニークで親しみやすい。 現在取り組んでいるプロジェクトをいくつかを紹介しよう。

「活版しおり」は名刺サイズで、文豪の残した言葉とイラストがあしらわれた 栞だ。特徴は樹脂版だけでなく、金属活字を使用していること。活版印刷の 風合いを楽しみながら読書の時間を過ごすことができる魅力的なプロダクトで ある。「活版しおり」はシリーズ化され、鎌倉文学館でも販売している。

活版印刷の書籍『活版書籍 はじまりの言葉「令和」』は、文庫本サイズの 読み物。この書籍の副題は「万葉集 梅花の歌三十二首併せて序」。新元 号の「令和」の出典が日本最古の歌集「万葉集」の梅花の歌、三十二首の 序文であるが、この本では三十二種の和歌の現代語訳や解説がまとめられ、 楽しい読み物になっている。

また、活版印刷の名刺を手軽に発注できるオーダーシステムを開発、横浜の土地柄を生かして神奈川県立歴史博物館において展開、金属活字の名刺を持ちたいと考えている人に呼びかけを行っている。

さらに「字心」では、オリジナルの印刷物の受注も行っている。名刺やショップカードであれば、金属活字を使って文字を組み、ロゴやシンボル、イラストは樹脂凸版などを使って組み合わせると、独特な風合いを持つ印刷物が出来上がる。通常の名刺やカード印刷よりやや割高になるが、伝統的な印刷手法による活版印刷は見る人の目を引き付ける。

金属活字を発注したい人には、築地活字の活字オーダーシステムがお勧めだ。メールやFAXでオーダーすれば、希望の活字を発送してくれる。活版活字の販売は築地活字のホームページ(http://tsukiji-katsuji.com)を参照してほしい。「築地活字書体見本帳」(左図)も取り寄せることができる。

個性的な3社が推し進める「字心」プロジェクトは、地域に根ざした印刷文化の継承・発展という点で今後も注目していきたい活動である。